



子どもが輝き、 教職員が働きやすい学校を

各市町教委・校長会への後期要請を行う

尾北教労は、11月下旬～12月にかけて、人事異動や来年度に向けてのいくつかの重要課題に関して、各市町教委および丹波地区小中学校校長会への要請を行いました。主な内容を紹介します。

本人の事情を考慮した 血の通った人事を

人事異動に関しては、尾北教労では毎年人事アンケートを行っています。その中からは、例えば、校長に伝えてあったことと全く食い違った異動が行われて本人が辛い思いをしたことや、女性教職員が育児休暇後に現任校に復帰するつもりでいたのが異動になり、校長に対して不信感を持ったなどの声が寄せられています。

組合として、

「本人の異動希望や事情については、文書できちんと把握すること」

「育児休暇後の異動については、正確な情報を本人に伝え、本人の思いや事情をきちんと把握すること」

を要請しました。重要なことは、本人との間での意思疎通を大切にすることであり、状況が変わったら早めに本人に打診するなど、血の通った手続きを踏むことが求めら

れています。

また、本人の希望を校長面接で聞く際に、間違いがないようにメモをとりながら聞く校長も多いのですが、希望や事情の内容は、本人に書いてもらうほうが一番間違いありません。すでに、江南市では、多くの学校で、校長が人事希望用紙を作成し、それを職場で配付し、本人が希望や事情を記入して提出しています。人事は重要な勤務条件の一つです。どの学校でも文書できちんと把握するよう改善が求められています。

全国学力テスト テスト対策は混乱生む

今年度、全国学力テストの愛知県の順位が悪かったことが話題になりました。わずかな点差でも順位だけが一人歩きし、混乱を生む。まさに全国学力テストの問題が浮き彫りになりました。他の自治体では、目先の点数を上げるためのテスト対策を行い、その結果、学びをゆがめ、子どもを苦しめるといった事態

が生じているところもあります。

また、来年度は、テスト内容に理科も加わり、学校現場にさらなる混乱を生むのではという不安が広がっています。4月のテスト近くになって、焦ってテスト対策を行うなどの事態が生じないよう要請を行いました。

職場でのパワハラ 重大な人権問題

ここ数年で、パワハラ問題で愛教労への相談が増えています。尾北でも残念ながら学校によってパワハラ問題が生じています。とりわけ、県内の多くの職場で若手教職員が増えてきて、若手への対応で管理職による暴言などのパワハラ行為が目立っています。「失敗しながら育つ」という教育的な観点を全職員が持ち、若手を温かく励まし育てられる学校職場にしたいものです。

特に管理職の先生方は、職場のリーダーとしてさまざまな事態にも冷静に対処し、全職員を上手にまとめていくという責務があります。感情的になって職員の人権や身分に関わる暴言をはくなどのパワハラ行為は厳に慎むべきです。

時間外勤務 きちんと割り振りを

労働安全衛生管理体制の整備が進み、どの職場でも在校時間記録表が作成され、教員委員会に毎月報告されています。

教職員の労働実態の把握が進んだのは一歩前進ですが、今後は、時間外勤務の割り振りをきちんととれるようにする、そして、時間外勤務自体を減らすということが次の課題になっています。

愛知県教委は、時間外勤務の割り振りの問題をどう改善するかに関して、

「校長が命じた職務であれば、どの職務でも時間外勤務の割り振り対象になる。」
「時間外勤務の割り振りは、口頭のみでなく、(割り振りの変更簿等の)客観的な方法で行うのが望ましい。」

の2点の見解を愛教労との交渉の場で明らかにしています。

「割り振りをとってください」と以前に比べ校長からよく言われるようになりましたが、忙しい毎日の中、そのまま放置され、結局、割り振りがとれなかったという声もよく聞かれます。

職場によっては、個人別の割り振り変更簿を設置し、本人がとりたいたいときにとりやすくしてある職場や、長期休業の前に、校長から、それまでの割り振りの日時数の確認と、まだとれていない割り振りの日時数を長期休業中にとるよう、話がきちんとされている職場もあります。

割り振りをきちんととれるようにすることと、時間外勤務自体を減らすことを、どの職場でも進めたいものです。

教室にエアコン 近隣市町でも急速に進む

毎年のように厳しくなる暑さで熱中症問題が深刻になり、全国で、学校にエアコンを設置する動きが最近広がっています。

近隣の小牧市や春日井市でも教室にエアコンを設置することになりました。

尾北ではすでに大口町で全教室と体育館に設置され、江南市でも音楽室に設置されました。他のいくつかの教育委員会からもエアコン設置に関して前向きに検討する方向が示されました。

全国学力テスト…

来年度、理科を加えて実施



さる12月9日、文部科学省は来年度の全国学力テストの実施要領を発表しました。今年度までと違うのは、国語と算数（数学）に加えて理科を実施することです。このため、今までより1時間、実施時間が増やされます。

理科を加えての調査については、2年前、抽出のときに行われました。その際の、文部科学省が全国すべての教育委員会に対して行ったアンケート結果では、理科を追加したこと

による子どもへの負担増加を指摘する意見が出ていました。

愛教労では、県内のすべての市町村教育委員会に対して、「全国学力テストに参加しないこと。」「もし、参加することとなった場合においても、市町村および学校別の成績を公表しないこと。また、過去問題や練習問題を解かせるなど、事前のテスト対策を行わないこと。」という要請書を出しました。

以下が、その要請内容です。

全国学力・学習状況調査に関する要請書

日頃は、教育行政にご尽力いただきありがとうございます。

来年度の全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）は、国語・算数（数学）に理科を加えて実施されようとしています。質問紙と合わせると、小学校では5時間、中学校では6時間の授業時間を使うことになり、1日中テストづけとなります。

子どもたちは、このように長時間のテスト、それもととも難しい内容のテストを受ける経験はしておらず、大変大きな負担となります。また、質問紙調査では、生活だけでなく内心に関わることまで、事細かに質問されます。子どもたちは、大変な苦痛を感じています。

全国学力テストを受けた小学6年生の感想を紹介します。

「問題が難しすぎる。」

「決めた人はやらないかもしれないけど、こっちの身にもなってほしい。」

「わたしたちにもやるかやらないか聞いてほしい。」

「これをやる時間がもったいない。この時間に新しい勉強ができたのに。」

ここからは、子どもたちが全国学力テストをやめて、通常の授業を受けたいという強い願いが伝わってきます。

この間、全国学力テストの都道府県別平均正答率が公表される度に、順位が低いことを気にする知事が、市町村別・学校別の成績を公表するよう圧力をかけたり、「点数を上げるように」とテスト対策を押しついたりすることが広がっています。

実施要領では、結果の公表にあたって「序列化や過度な競争が生じないようにする」と戒めているのですが、すでに序列化や競争が進んでしまっています。都道府県別から広げて、市町村別・学校別の成績公表となれば、さらに弊害が深刻化することが予測されます。

一方で、愛知県では、今年度の小学校国語Bの成績が悪かったことが職場で話題になったところもあります。しかし、愛知県の平均正答数と全国のそれとは、ほとんど開きがありません。小学校国語Bの場合、10問のうち、愛知県の正答数は5.2問、全国は5.5問です。（「平成26年度全国学力・学習状況調査、愛知県の結果」2014.8.25）たったの0.3問の違いに過ぎず、比較や順位づけには意味がないのです。

実施要領では、「調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面である」としています。子どもたちは、義務教育だけでも9年間という長い年月をかけ、学校教育全体を通じてその学力を積み上げていきます。全国学力テストは、「活用」に偏った難しい内容であること、問題数が極めて少ないこと、そしてペーパーテストであることなどから、長年積み重ねてきた学力を正確に把握することはできません。

テスト対策が過熱化している他県の状況では、事前練習のために通常の授業時間を充てたり、大量の練習プリントが宿題として出されたりしているところもあります。事前練習によりテスト技術が上達して、テストの点は上がるかもしれませんが、偏った学力観に重点が置かれて学びがゆがめられたり、大量の宿題に子どもが悲鳴を上げたりしている状況となっています。

このように、全国学力テストは、学校間競争をあいり、学びをゆがませ、子どもたちの心を傷つけるものです。そこで、以下のような要請をする次第です。

記

- 1 全国学力テストに参加しないこと。
- 2 もし、参加することとなった場合においても、市町村および学校別の成績を公表しないこと。
また、過去問題や練習問題を解かせるなど、事前のテスト対策を行わないこと。